

平成 31 年度使用高等学校
(第 1 部)
教科書編集趣意書
国語 (国語表現) 編

目次

	ページ
002 東書 国語表現	1
218 京書 国語表現	3

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
2 東 書	国表 304	国語表現 代表者 三角洋一

編集の基本方針

- 1 適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。
- 2 思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨く。
- 3 国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

編集上の留意点および特色

- 1 全部で11の単元を、「情報収集・整理」(第1～4単元)、「言語感覚を磨く」(第5・6単元)、「話して伝える」(第7～9単元)、「書いて伝える」(第10・11単元)というまとまりで構成しました。配列順に学習することも、特定の単元を取り立てて学習することも可能です。
- 2 それぞれの単元は、「導入」「本文」「課題」という3つの流れで構成しました。生徒が取り組みやすく、スムーズな学習展開が可能です。

〔導入〕単元冒頭には、学習のきっかけとなる文章や、導入のためのミニ学習活動などを載せています。生徒の興味・関心を喚起し、スムーズに学習に取り組むことができます。

〔本文〕学習内容や学習方法を分かりやすく解説しています。3段組みの紙面構成で、主要な流れを中段の文章部分で示し、その要約(キーワード)を上段に、学習活動例や脚注などを下段に示しました。

〔課題〕本文を読んで学習内容や学習方法を理解した後に行う、まとめとしての活動や、学習内容に関連して、そのスキルを定着させる発展・応用的な活動を示しました。
- 3 附録には、情報収集・整理のポイントや電話のかけ方、敬語の使い方など、表現技能面での基礎的・基本的事項をコンパクトにまとめるとともに、同音異義語や四字熟語、故事成語などの資料も豊富に用意し、生徒の語彙力や語句の運用力を豊かにする配慮をしています。本文の脚注欄には「附録」マークを示し、本文と附録とが有機的に関連するようにしています。
- 4 活字の大きさや行間、レイアウト、配色にも工夫を凝らし、全ての生徒にとって見やすく学習しやすい紙面構成になるよう、ユニバーサルデザインに配慮しました。
- 5 再生紙と植物油インキを使用するなど、環境にも配慮した教科書になっています。

学習指導要領との関連

「内容」(1)アや「内容の取扱い」(4)に示された「情報」には特に留意し、「情報収集・整理」の力を身につける単元を最初に配置するとともに(第1～4単元)、附録には、「情報の探し方」「調べる時のポイント」等、情報収集・整理に関するものを豊富に用意しました。

教科書の構成・内容一覧

単元構成・内容	学習指導要領との対照
1 調べる〔情報収集の技術〕 ・本に当たる 情報探しの一方法 立花 隆	(1)ア
2 取材する〔聞き取り取材による情報収集〕 ・医療という現場 増田れい子	(1)アエ (2)エ
3 説明する〔本のおもしろさを紹介する〕 ・一人で対する未知の世界 長谷川眞理子	(1)ウエオ (2)イエ
4 まとめる〔情報を整理して文章にまとめる〕 ・伝える力 池上 彰	(1)アウエオ (2)ウオ
5 古典の表現に学ぶ〔現代に生きる古典の表現〕 ・『枕草子』に参加してみる 渡辺 実	(1)オカ (2)イ
6 広告の表現に学ぶ〔広告とレトリック〕	(1)アイウエオカ (2)エ
7 話す〔メモをもとにしたスピーチ〕	(1)エオ
8 発表する〔情報を整理して口頭で伝える〕	(1)アエオ (2)アオ
9 討論する〔主張の観点と根拠を考える〕	(1)アイエカ (2)ア
10 意見文を書く〔構成を考える〕 ・「一・五」の関わり 小此木啓吾	(1)ウエオカ (2)ア
11 小論文を書く〔「考え方」を考える〕 ・時分の花と非成熟社会 中村雄二郎	(1)ウエ
附録	
調べる時のポイント 図書館で本を探す 本で調べる インターネットを使う 著作権と引用 インタビューとアンケート 電話をかける 誤りやすい敬語の使い方 手紙を書く 面接の受け方 文章構成の型 マップ法を使う	図表を活用する 同音異義語 同訓異義語 三字熟語・四字熟語 対義語・類義語 故事成語・ことわざ・慣用句 助数詞 常用漢字表 情報の探し方（前見返し） 原稿用紙の書き方（後見返し） 小論文を書く手順（後見返し）

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
218 京書	国表 303	国語表現 代表著作者 樺島忠夫

■ 編集の基本方針 ■

「伝え合う力」を高める教科書づくりに留意しました。教育基本法、学習指導要領の目標を達成するために、「情報を収集・分析し、論拠を導く思考力」、「豊かなものの見方、感じ方、考え方のできる想像力」が育めるような単元、教材を用意しました。また、言葉の成り立ちや表現の特色について、歴史的、国際的な視野から考えを深めることができるようにしました。

■ 編集上特に留意した点、特色 ■

1. 5つのステージと15の単元 「表現者になろう」をサブテーマに、「伝え合う力」を高める言語活動を5つのステージ、15単元に分け、段階を踏んで系統的に学習できるように構成しました。

○ ステージ1 表現のイメージをつかむ

導入のステージ。単元「話すということ」、「書くということ」を通して、「表現」とは何かを考えます。言語活動としては、「話す・聞く」「書く」の両面で自己紹介に取り組みます。

○ ステージ2 表現のスタイルを知る

表現の基礎知識の定着をはかります。「話す・聞く」では、よりの確に伝えるための話し方を、「書く」では、記録文・説明文・意見文・通信文などの基本的な文章の型・決まりを学びます。

○ ステージ3 表現のテクニックを磨く

より高度な表現技法を学びます。「話す・聞く」では、情報を収集・分析して伝えるプレゼンテーションや、相手の立場を尊重しながら論拠の妥当性を判断する討論の技術を磨きます。「書く」では、調査結果を報告する文章、論理的に伝えるための小論文に取り組みます。

○ ステージ4 表現のルーツを知る

日本語や言葉に関する理解を深めます。語彙、敬語表現、異文化交流における日本語表現のあり方などを取り上げました。また、古典と現代文を読み比べて、語や文体の変遷を考えます。

○ ステージ5 創作者になろう

創作に取り組みます。詩歌、随想、小説の創作を通して、感動を効果的に伝える力、想像力を豊かにする力を養います。段階を踏んで長文が書けるように、課題にも工夫をこらしました。

2. 豊富な実践課題、スキル集 本文の理解を深める実践課題「LET'S TRY」を脚注部分に設け、さらに各単元末には「話してみよう」「書いてみよう」「考えてみよう」などの応用課題を設けました。また、巻末には、表現のテクニックをまとめた「文章作成スキル集」も設けました。総じて、「話す・書く・考える」に主体的・積極的に取り組める教科書になっています。

●教科書の構成●

■ステージ1 表現のイメージをつかむ

(一) 話すということ

- 1 話すことは伝えること
- 2 スピーチのポイント
- 3 人前で話すとき
- 4 どんな順序でどう述べるか

[話してみよう①]

[よく聞こう①]

(二) 書くということ

一言・一文があれば表現になる

[考えてみよう①]

[書いてみよう①]

■ステージ2 表現のスタイルを知る

(一) 的確に話す

- 1 分かりやすく話すには
- 2 聞き手を意識して話す
- 3 紹介する

[話してみよう②]

(二) 記録・説明の文章を書く

- 1 記録の文章を書く
- 2 説明の文章を書く

[書いてみよう②]

(三) 意見文を書く

- 1 意見文とは
- 2 どのようにして意見を持つか
- 3 意見文の基本構成

[考えてみよう②]

[書いてみよう③]

(四) 通信文を書く

- 1 伝達の文章とは
- 2 手紙(お礼・案内)
- 3 呼びかけ文(依頼・連絡)
- 4 電子メール・携帯メール

[書いてみよう④]

■ステージ3 表現のテクニックを磨く

(一) 調査したことを発表する

- 1 調べる 情報の収集
- 2 要約をする
- 3 インタビューをする
- 4 表・グラフ・図解の利用
- 5 プレゼンテーションをする

[発表しよう①]

(二) 討論をする ― 話し合う

- 1 討論する目的
- 2 討論するための注意点
- 3 デイバートをしてみよう

(三) 報告の文章を書く

- 1 報告の文章とは

[書いてみよう⑤]

(四) 小論文を書く

- 1 小論文とは
- 2 意見を持つには ― その実例
- 3 意見を膨らませる
- 4 小論文を書く 基本の構成
- 5 小論文の表現

[書いてみよう⑥～⑩]

■ステージ4 表現のルーツを知る

(一) 言葉の歴史・文章の変遷

[考えてみよう③]

(二) 日本語表現の特色と異文化

[考えてみよう④]

■ステージ5 創作者になろう

(一) 詩歌をつくる

◇詩歌とは ◇感動を言葉にする

[詩歌創作 ステップ1～3]

(二) 随想を書く

◇随想とは ◇主観を超える工夫をする

[随想創作 ステップ1～3]

(三) 小説を書く

◇小説とは ◇構想を練る

[小説創作 ステップ1～3]

■資料 文章作成スキル集

①書くことを見つける ②内容を組み立てる ③表現の方法 ④推敲する ⑤文章のアウトライン例
手紙の基本パターン 〈付録〉常用漢字表 原稿用紙の使い方